

精密深絞り 内径0.7ミリの世界

ワールドウイング（藤沢市菖蒲沢、☎0466・48・4612）は、2018年7月から工事を進めていた新本社・工場を稼働させた。旧本社の老朽化とともに建て替えを進めていたが、数億円を投じたという新工場は、騒音などに配慮した「都市型工場」を実現した。チタンやステンレスの「精密深絞り加工」を主力にし、絞り内径0.7ミリまで対応する。



都市型工場を稼働

藤沢と静岡県袋井市の2工場を持つ従業員数57人の企業。袋井工場では自動車部品を生産している。

今回稼働した藤沢の新工場では、金属の精密プレス部品加工のほか、ガスセンサー、給湯器温度センサーなどの外装部品を生産。中でもプレス部品は年間600種類を手掛ける。寸法公差0.01ミリ以下のプレス量産化も達成している。



ワールドウイング

得意とする深絞り加工では「超精密化」を進めており、内径1ミリ以下の部品を

チタンやステンレス対応

積極的に受注。例えば、医療用の注射器部品や電子機器の精密部品などだ。

「ステンレスの精密深絞り加工など、昔から他社が敬遠する仕事を、むしろ得意にしていこうと挑戦してきました。失敗の積み重ねと経験値で、今の技術があります」と野口隆史社長は語る。

令和時代のものづくり

そんな同社が今回稼働させた新工場は、敷地面積1815平方メートル、建築面積700平方メートルの鉄骨造り2階建て。「音や振動など、環境に配慮した都市型工場です」（野口社長）としており、建物の構造を工夫した。

工場の周囲は住宅街。その中で同社が地元・藤沢で、しかも、国内生産を維持するには、この「都市型工場」がカギになると考えている。「環境配慮に加え、超精密などの高付加価値の仕事をするのも都市型工場の要素です」（同）とも付け加え、令和時代の新しいものづくりの姿を見据えている。

「エコイット」が中小企業庁長官賞

独創性や性能などが優れた環境装置・技術を決める今年度の「優秀環境装置表彰」（日本産業機械工業会主催、経済産業省後援）で、永進テクノ（相模原市緑区下九沢、☎042・773・6238）が製造販売する浮遊物・浮上油回収装置「エコイット」が中小企業庁長官賞を見事受賞した。今回、県央地域の中小企業としては唯一の選出となった。



県央地区唯一の選出

同製品は工作機械の「血液」ともいえる切削液などを正常な状態に保つための装置。切削液は金属加工時に不可欠なものだが、繰り返し使っていると、油や金属くずといった不純物が混ざった状態で腐敗、やがては加工精度にも影響する。

そこで「エコイット」が、不純物を掃除機のように吸引し、切削液や工作機械のタンク内を清潔にする。

2009年7月の発売以来、累計販売1400台を達成。国内のみならず台湾や中国、ベトナム、タイなどでも使われている。参考価格は70万～80万円。

同社は「当社の『エコイット』の存在を知らない企業もたくさんありますので、受賞を機に認知度をもっと高めていきたいです」（担当者）と話していた。



永進テクノ

原稿不要でHP制作 新サービス「ペジック」開始

県内中小企業情報のポータルサイト「産業NAVI」を運営する産業NAVI（横浜市中区元浜町、☎045・671・7125）は、原稿不要でホームページ（HP）を制作する新サービス「ペジック」を始めた。



産業NAVI

制作料金は30万円（税別、5ページ構成）。この中にサーバー登録料、ドメイン取得、SEO対策なども含まれている。担当者との計3回の打ち合わせで完成させる。原稿作成から写真撮影（5カット

まで）も全てお任せだ。一方、ページ更新はマニュアルに沿って自社が行うか、月額1万円（税別）の保守契約サービスを用意。年間12回に限り、同社で更新する。

産業NAVIを運営する同社だからこそ、中小企業の広報に精通したスタッフ、デザイナーがHP制作を手掛けるため、他社とは一味違うページになっている。

デザイン、撮影、サーバー登録…全部含めて30万円

81歳で環境ベンチャー設立



老いても花咲かせたい

ET Japan

老いてもきれいな花を咲かせたい。恭誉建設（相模原市中央区陽光台）の山下操社長（81）が環境ベンチャー企業を立ち上げた。独自開発した土壌汚染対策製品「土壌元気君」などの環境製品をグローバル市場に普及させるのが狙い。山下社長の思いに共感したパートナー、元病院事務長の吉良征紀・財務担当とともに、六価クロムなどの有害物質の撲滅に向けた製品の開発を進める。「100歳までやっていきます」（山下社長）としており、シニア2人組の挑戦が始まった。

新会社は「ET Japan」（相模原市中央区、amakusamisao@kyoyo.org）。社名はエンパイロメント（環境）の頭文字「E」とテクノロジーの「T」に由来。「日本発の環境技術を世界に広めたい」とする気持ちから名付けたという。恭誉建設が10年ほど前に開発した、六価クロムなどの重金属対策製品



「土壌元気君」を中心に海外市場に売り込んでいく。

■六価クロムを無害化 母体の恭誉建設は、大手ゼネコンの下で長く土木工事に携わってきた。ただ、建設工事の現場で「地盤の固化」などに用いられるセメント系固化剤には六価

クロムが含まれている。皮膚に付着すると皮膚炎や腫瘍の原因になり、体内に蓄積すると発がんの恐れがある。また、六価クロムは水に溶けやすく、雨での流出や地下水汚染なども懸念される。

そこで山下社長は試行錯誤の末、10年ほど前に「土壌元気君」を開発。わずかな量を添加するだけで六価クロムを無害化できるものだ。

現在、六価クロム対策用の「土壌元気君Cr」のほか、同技術をベースに他の重金属にも対応した「土壌元気君」、水質改善凝集剤「Kクリーン」などを販売。東日本大震災の復旧工事でも使われた。

■新元号を機に決意

これまでこうした環境製品は、恭誉建設の環境事業部で手掛けていたが、これを新会社で担うことにした。山下社長は「平成から令和になろうとしている時に、平成最後の思いとして、これからは地球環境を良くしていきたいと決意しました」と語る。今後は経済成長は著しいものの、環境対策が必要になる東南アジアに製品を売り込む。現在開発中の製品は国際特許も取得する予定だ。

「老いても花を咲かせる」（山下社長）という思いは強く、100歳まで現役。将来は50億円規模の会社を目指していきたいとしている。

日本の技術を世界へ

ドームプラネットがヒット



体験型アトラクション

寝ながら地球を満喫。スペースクリエイションズ（川崎市麻生区上麻生、☎044・455・6981）が展開するドーム型体験型アトラクション「ドームプラネット」がヒットを飛ばしている。

■スペースクリエイションズ

いわば「寝っ転がり鑑賞するプラネタリウム」のようなもので、視界に360度広がる大迫力の高精細映像（4K）により、まるでその場にいるような感覚になるという。主に週末、ショッピングセンターの催事などに採用され、年間5万人の動員も達成した。

商業施設運営やイベント誘致を手掛ける企業にいた佐藤誠史社長が、広告代理店でグラフィックデザインや映像撮影・制作を担当していた共同経営者と2016年6月に設立した若いベンチャー。

主力事業である「ドームプラネット」は、イベント会場などにドーム型のプラネタリウム（直径6×高さ3.6メートル）を設置。その中でお客さんが地

面に寝っ転がって映像を楽しむ。

映像コンテンツは「日本一の星空」や「沖縄海底洞窟探検」「夜空から降り注ぐオーロラ」「夜空に咲く花火とヒカリの万華鏡」などがある。年齢層問わず人気で、行列が絶えないという。

機材レンタルもしており、価格は1日20万円（税別）から。佐藤社長は「今後は映像コンテンツを増やしたいです」と話しており、例えば、沖縄の自然をドームプラネットで体験し、その横で沖縄の物産品を売ったり、旅行プランを立てられたりするような「エンターテインメント物産展」も企画したいとしている。



社長さんが知っておきたい 冠婚葬祭のマナー

前回、社葬に直接関わる費用の内容と、社葬の経費に適用できる範囲をお話ししました。

今回は、社葬としての経費に適用できない範囲と、社葬でのお香典の取り扱いについてのお話です。以下に挙げます。

- ▽社葬の前に行う密葬の葬儀費用や戒名料
 - ▽お香典返しの返礼品代
 - ▽ご納骨の費用
 - ▽墓地・墓石の購入費用
 - ▽お位牌・お仏壇購入費
 - ▽社葬以外の接待費
 - ▽社葬後の法要費用
- これらは、葬儀費用として当てはまらない、あるいは、ご遺族が負担すべきと判断されるものは、社葬の経費としては適用されません。ですが、社葬の経費として該当しないこれらの費用を、会社の経費として算出することはできません。
- ご遺族との関係性によって取り扱いが異なりますが、参考までに例を挙げておきます。
- ▽遺族が役員の場合は役員賞与（例：同族



▽社葬についての基礎知識⑥ ~費用について~

会社の密葬費用を会社が負担した場合、その会社社員の個人負担分として、その費用は役員賞与扱いとなります）

▽遺族が会社関係者でない場合は寄付金（例：遺族・親族が所属していない会社で、初七日法要費用を負担した場合、前会長の法要費用遺族負担分として、その費用は寄付金扱いとなります）

▽遺族に負担を求めることに困難な事情がある場合には弔慰金や退職金（例：勤務中の事故で亡くなった方の社葬で遺族負担分を全て会社が負担した場合は、金額に応じて弔慰金や退職金扱いとなります）

次に、社葬でのお香典の取り扱いについてですが、会社が受け取る場合と、ご遺族が受け取る場合とがあります。基本的には弔問客からご遺族へと渡されているものなので、ご遺族が受け取るのが一般的です。

お香典返しの手間がご遺族の負担になる事を考慮し、お香典辞退とお知らせするケースも増えております。

（清水誠葬具店副社長・清水ふじ代）